



首里城正殿復元完成記念 & 川崎市・那覇市友好都市締結 30 周年記念

首里城復元考証の第一人者・田名真之氏 特別招へい講演会

『首里城の今、江戸上りの昔 ～琉球使節の足跡と、令和によみがえる首里城～』

2027 年末に解体を控える「川崎市教育文化会館」にて 10 月 3 日（土）開催（入場無料）



合同会社まぶいワークスは、川崎市・那覇市友好都市締結 30 周年ならびに首里城正殿復元完成を記念し、2026 年 10 月 3 日（土）、川崎市教育文化会館イベントホールにて、歴史学者・田名真之氏を迎えた特別講演会を開催いたします（後援：那覇市／川崎市）。本企画は、翌 10 月 4 日（日）に開催される歴史ロマン「川崎宿江戸上り行列」に先立ち、首里城復元の最前線と琉球使節の史実を学び、両市の交流の歩みを体感するための“知のプロローグ”として開催するものです。「江戸上り（江戸立）」の源流である「首里城」の今と昔に迫るとともに、2027 年末の解体・再編を控える同館に刻まれた沖縄文化との交流の軌跡を未来へ継承すべく、開演前の生演奏や導入映像の上映、貴重な巡回パネル展とともに立体的に展開いたします。

【田名真之氏による講演の核心テーマ】

■ 首里城復元考証の第一人者が解き明かす「首里城の今と昔、そして江戸上りの足跡」

内閣府沖縄総合事務局「首里城復元に向けた技術検討委員会」委員、ならびに沖縄県「首里城復興基金事業 監修会議」委員長を務め、平成から令和に至る正殿復元の学術考証・現場監修において中核を担い続ける歴史学者・田名真之氏が登壇。近世琉球史および外交文書『歴代宝案』研究の第一人者である同氏が、沖縄芸能や王府文化の源流である「首里城」の今と昔、そして完成間近の令和の正殿復元事業の核心を語ります。さらに、首里城を基点にしたときに垣間見える「江戸上り（江戸立）」の姿にも迫ります。

【本企画の開催意義：会場の歴史空間】

■ 2027 年解体を前に——教育文化会館に刻まれた沖縄の記憶

会場の川崎市教育文化会館は、前身の川崎市公民館で開催された 1950 年の「第 1 回沖縄芸能大会」（主催：川崎沖縄芸能研究会）からの系譜を継ぎ、沖縄出身者を支えた多文化共生の原点です。1972 年 5 月 15 日の本土復帰当日には約 1,500 名が結集し、川崎市長（当時）の「沖縄の心を取り戻す」との表明のもと、行政・議会・市民と県人会・芸能研究会が一体となって歴史を刻んだ象徴的舞台です。2027 年末の解体を前に、この歴史ある会場で両市の交流の原点を学ぶことは、川崎の沖縄芸能と市民交流の歩みを未来へ継承する極めて重要な機会となります。

【講演×映像×展示＋生演奏 体感する歴史空間】

● 開演前（14:30～）：琉球古典音楽 ウエルカム生演奏

開演に先立ち、厳かな琉球古典音楽の生演奏でお迎えします。古式の調べが来場者を歴史体感の場へと誘います。

● 開演（15:00～）：プロローグ映像上映（川崎・沖縄交流史）

田名真之氏の学術講演に先立ち、弊社制作による交流史紹介映像（約 15 分）を上映します。川崎と沖縄が紡いできた歩みを凝縮した映像を通じ、続く本編講演の理解を深める“知のプロローグ”として展開します。

● 同時開催（14:00 開場～）：川崎区主催 巡回パネル展 最終展示

「江戸上り・川崎沖縄芸能史・川崎駅前石敢當」

東海道かわさき宿交流館企画展から続く、川崎区主催巡回展示空間と連動し、川崎沖縄芸能先駆者たちの足跡、「芸能大会公演年表」、「川崎駅前石敢當文化財認定経緯」等の貴重写真を会場内で一挙公開します。

【開催概要】

事業名称	首里城正殿復元完成記念＆川崎市・那覇市友好都市締結 30 周年記念 特別招へい講演会『首里城の今、江戸上りの昔～琉球使節の足跡と、令和によみがえる首里城～』
日時	2026 年 10 月 3 日（土）15:00～16:30（14:00 開場／音楽生演奏・映像上映開始）
会場	川崎市教育文化会館 イベントホール（神奈川県川崎市川崎区富士見 2-1-3）
入場料	無料（事前申込不要・先着順受付）
登壇講師	田名 真之 氏（歴史学者／首里城復元考証・監修者／元 沖縄県立博物館・美術館 館長）
司会	山川夏子（合同会社まぶいワークス）
主催	合同会社まぶいワークス
共催	川崎沖縄芸能研究会、川崎沖縄県人会
後援	那覇市、川崎市
助成	公益財団法人沖縄協会
協力	川崎宿江戸上り行列実行委員会

【登壇講師プロフィール】

田名 真之（だな まさゆき）氏

歴史学者／内閣府沖縄総合事務局「首里城復元に向けた技術検討委員会」委員／沖縄県 首里城復興基金事業 監修会議 委員長／元 沖縄県立博物館・美術館 館長

1950 年沖縄県那覇市生まれ。神戸大学文学部卒業後、那覇市役所に入所し歴史資料室長として『那覇市史』編纂や琉球家譜・古文書の収集を牽引。沖縄県立芸術大学教授、沖縄国際大学教授（元南島文化研究所長）を経て、沖縄県立博物館・美術館館長を歴任。琉球王国の外交文書『歴代宝案』や土族家譜など、近世琉球史研究の第一人者として知られる。1992 年の「平成の復元」から 2026 年秋完成を迎える「令和の正殿復元」に至るまで、国および沖縄県における正殿復元・美術工芸品調達の学術考証と現場監修を統括し続けている。

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

合同会社まぶいワークス（特別招へい講演会 主催事務局）

実務担当・演出監督：喜屋武 靖

Mail：mabuiworks@gmail.com

特設ページ：<https://kawasaki-edonobori.jp/moushiawase/>

